

## 第2章

### 教育を取り巻く現状

---

- 1 教育を取り巻く社会経済情勢
- 2 国における教育目標・教育政策の動向

## 第3章

### 札幌市教育ビジョン

---

- 1 札幌市の教育が目指す人間像
- 2 基本的方向性
  - 基本的方向性1 自ら学び、共に生きる力を培う学びの推進
  - 基本的方向性2 多様な学びを支える環境の充実
  - 基本的方向性3 市民ぐるみで支え合う仕組みづくり
- 3 札幌市教育ビジョンの全体像

## 第3章 札幌市教育ビジョン

### 1 札幌市の教育が目指す人間像

教育基本法では、「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行わなければならない」と、教育の目的が定められています。

本計画では、札幌市の教育が目指すべき人格、すなわち「平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な姿」を簡潔に表現した「札幌市の教育が目指す人間像」を次のとおり掲げます。

#### 自立した札幌人

いかに時代が変わろうとも、「人格の完成」に向けては、一人の人間として「**自立**」することが求められます。

幼児期には遊びを通して、人や自然と豊かに関わり、自分が誰かの役に立っていると感じるなど、自己肯定感<sup>9</sup>や自己有用感<sup>10</sup>を育むことが「自立」への第一歩です。そして、発達段階に応じて、様々な社会体験を通じ、自らの人生を自らの責任で引き受け、一人の人間として生きる自覚をもち、未来に向かって行動することが大切です。

しかし、この自覚は決して、自分さえよければ、といった利己的な考え方や、孤立して生きることを求めるものではありません。他者を自分と同じ「自立した存在」として尊重し、共に支え合いながら生きていくという「**共生**」の思いを併せもつことが不可欠です。そして、「共生」の対象は、身近な家族や地域の方々はもとより、世代や性別、国籍、文化の違い、障がいの有無などにかかわらず、同じ時代を生きている世界中の人々、更には、今の社会を築き上げた先人やまだ見ぬ未来の世代までも含むものです。

また、誰もが、様々な課題を自らの問題と考え、互いの個性や多様性を認め合う寛容さと相互の信頼感のもとで、もてる能力を十分に発揮して積極的に社会参加し、生きる喜びと幸せを感じてほしい、と願うものです。

本計画では、このように、広く、時や空間を越えた他者との「共生」への願いを込め、「共生」と一体となった幅広い意味をもつ「自立」を「**自立した**」と表現しています。

一方、「平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質」は、時代の変化に伴って変わるものであり、また、同じ時代であっても、地域の状況によって左右されるものです。

今後、人口減少社会の到来や、生産年齢人口の減少に伴う経済規模の縮小が見込まれる中、右肩上がりの社会構造を前提とした価値観は大きく変わりつつあり、いわゆるパラダイム<sup>11</sup>の転換

9 自己肯定感 自分の在り方を積極的に評価できる感情、自らの価値や存在意義を肯定できる感情など。

10 自己有用感 他者との関係の中で、「自分は役に立っている」など、自分の存在を価値あるものと受け止めることができる感覚。

11 パラダイム ある時代や分野において支配的規範となる「物の見方や捉え方」のこと。

が求められています。市民は、都市の活力と生活の質を高めるとともに、先人が知恵と努力で築き上げてきた、この自然豊かで文化芸術の薫り高いまちを、次世代に良好な形で引き継いでいかなければなりません。

本計画では、このような状況を受け止め、様々な課題解決に果敢に立ち向かっていく資質を有する人間の在り方を「**札幌人**」と表現しています。札幌の豊かな自然や社会、文化の中で、学び、生活した経験をもつ者が、その恵まれた環境の中で育まれる創造力や豊かな心などの総合的な素養を生かし、ふるさと札幌への思いを心にもち、伝統や文化を尊重しながら、国際的な視野ももって、札幌をはじめ様々な地域や国で活躍する人になってほしいという思いが込められています。

すなわち、「**自立した札幌人**」とは、

未来に向かって 創造的に考え、主体的に行動する人  
心豊かで 自他を尊重し、共に高め合い、支え合う人  
ふるさと札幌を心にもち、国際的な視野で学び続ける人

であることを意味します。

## 2 基本的方向性

札幌市の教育が目指す人間像「**自立した札幌人**」を実現するためには、教育を取り巻く社会経済情勢の変化により、知識の多様化や陳腐化が一層進行することを見据え、学校の卒業をもって「学び」が終了するのではなく、**幼児期から生涯にわたって学び続ける**ことが必要です。

市民が、自ら生きていく中で学びを主体的に捉えることができるよう、学校教育の段階から、連続した学びの体制を整備するとともに、子ども一人一人の心身の発達の段階と学校や地域の実態を踏まえ、札幌の自然や社会、文化等の豊かな環境を生かしながら、「学ぶ力 -知-」「豊かな心 -徳-」「健やかな体 -体-」の調和のとれた「生きる力」を育てていくことが大切です。

併せて、学校教育と生涯学習の学びの垣根を低くして、子どもから大人までの様々な世代が、地域や社会に主体的に関わりながら、共に学ぶ体験を積み重ねるなどして、「共に生きる力」を培うことが重要となります。

こうした「**自ら学び、共に生きる力を培う学び**」を推進することが、「自立した札幌人」を実現するための要と言えます。

また、この学びの推進に当たっては、市民が、経済的理由や地理的・時間的条件にかかわらず、安心して様々な学びにつながるができるよう、学びの場と機会を保障することが不可欠であることから、「**多様な学びを支える環境**」を充実させる必要があります。

加えて、教育が、人と人との関わりの中で進められる営みであることを踏まえると、この人間像を真に実現するためには、日々展開される様々な学びを通して「社会が人を育み、人が社会をつくる」という好循環を生み出すなど、実際に回り始める「仕組み」をつくり上げることが大切です。

例えば、世代や立場などが異なる様々な市民が、学びを仲立ちとして出会い、そこでの学びが人と人とのつながりの形成や活性化を促進し、更に、このつながりが核となって、次なる学びの深化が図られるということなどが想定されます。

このように、「**市民ぐるみで支え合う仕組み**」をつくり上げることで、一人一人の生涯にわたる学びと実践の循環が生まれ、ひいてはまちづくりの活力の源となります。

更に、こうした環境の中で育ち、成長した人々が、自然体で次世代の学びを支え合うようになり、世代間の循環につながることも期待されます。

以上を踏まえて、札幌市の教育が目指す人間像「自立した札幌人」を実現するため、以下の三つの基本的方向性に沿って教育施策を展開していきます。

なお、これらの基本的方向性は、それぞれが独立しているのではなく、環境の充実や仕組みづくりによって学びが推進される一方、学びを進めていく中で環境や仕組みを見直す必要性が生まれるなど、相互に関連しているものです。

### 1 自ら学び、共に生きる力を培う学びの推進

市民一人一人が、生涯にわたって主体的に学び続けることができるよう、学校教育と生涯学習における縦の接続と横の接続を強化し、「自ら学び、共に生きる力を培う学びの推進」を図りながら、「自立した札幌人」として必要な資質・能力を育みます。

### 2 多様な学びを支える環境の充実

市民一人一人が、多様なニーズに応じた学びの機会を得ることができるよう、各成長段階での良質な教育の機会の保障の観点から、「多様な学びを支える環境の充実」を図ります。

### 3 市民ぐるみで支え合う仕組みづくり

市民一人一人が、学びを仲立ちとして相互に連携・協力するとともに、この関係性が市内各所で定着して学びのコミュニティが形成されるよう、「市民ぐるみで支え合う仕組みづくり」に取り組めます。

札幌市の教育が目指す人間像

## 自立した札幌人

すなわち…

未来に向かって 創造的に考え、主体的に行動する人  
心豊かで 自他を尊重し、共に高め合い、支え合う人  
ふるさと札幌を心にもち、国際的な視野で学び続ける人

